

報道関係者のみなさまへ

令和4年10月10日  
(一社) 男女共同参画学協会連絡会

## 第五回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査 【お知らせ】

～とどけ、2万人の研究者の声！

20年の継続調査で浮き彫りとなった女性研究者と任期付研究員の窮状～

男女共同参画学協会連絡会は、性別に関わらずだれもが個性と能力を発揮できる研究環境をつくるため、120学会の自然科学系の加盟学協会を中心に5年に一度、研究者や技術者を対象にした大規模な男女共同参画実態調査をおこなってきました。開始後20年目となる第5回調査及び継続調査からみえてきた課題を公表しましたのでお知らせします。

- ・ (一社) 男女共同参画学協会連絡会は、2002年に14の学会により設立され、20周年を迎える現在、120の学協会が加盟する一大学術団体である。
- ・ 学協会間での連携協力を行いながら、科学技術の分野において、女性と男性がともに個性と能力を発揮できる環境作りとネットワーク作りをミッションとしている。
- ・ 上記のミッション達成の一つとして、「技術者・研究者のコミュニティのおかれている現状を把握し、課題を抽出して提言をまとめること」を目的に、四～五年ごとに科学技術系専門職の男女共同参画実態調査(通称大規模アンケート)を行っている。
- ・ 本年8月に、令和3年10月～11月に実施した第五回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査(回答者19,505名)についての解析報告書を作成した。

### 結果のポイント

- ◆役職の推進度を表す(役職指数)はほとんどの機関・年代で男性よりも女性が低く、改善の傾向はほとんどない。
- ◆講師以上の大学・高専等教員の女性比率は伸びておらず新規採用・定着及び昇進が進んでいない。
- ◆男女の所得格差はどの職位でも依然と存在し、改善傾向が見られない。
- ◆子どもの数は、男性では2人、女性では1人と、男女で2倍もの大きな差が依然とある。
- ◆女性では年収と子どもの数とに顕著な相関はないが、男性では年収に比例して子どもの数が増加。子どもが少ない理由には女性が時間的な負担、男性が経済的な負担を挙げている。
- ◆任期・契約期間付き職の在職年数は女性の方が長い傾向。今回の調査で、男女ともに「10年以内」が6%と激減。これは、改正労働契約法(無期転用ルール等：平成25年4月1日施行)によるいわゆる「雇い止め」の影響とみられ、人材の流出が懸念される。
- ◆任期付き職の女性で「育児休業制度があったが対象外であった」との回答が多く任期の有無で明らかな差異がみられ、育児休業の取得要件が、任期付き職に適合していない。

◆平均年収はどの職位でも男女ともに任期付き職で低い。特に、男女とも任期付き研究員では任期なし職研究員に比べ平均年収が240万円も低く、経年的にみても所得が減少しており、処遇は悪化傾向にある。

◆在職場時間は「30～45歳」の女性で減少。子育て期と重なり、女性が育児・家事などの家庭責任を果たしているためと推察される。家事・育児・介護に要する時間（一週間あたり）は男女差が極めて顕著で、全ての年代で女性が男性を大きく上回っている。

<男女共同参画学協会連絡会ホームページ本報告書のURL>

<https://djrenrakukai.org/enquete.html#enq2021>

[https://djrenrakukai.org/doc\\_pdf/2022/5th\\_enq/5th\\_enq\\_report.pdf](https://djrenrakukai.org/doc_pdf/2022/5th_enq/5th_enq_report.pdf)

(一切の無断転載を禁じます)

## 参考資料

1) 男女共同参画学協会連絡会、平成15年度文部科学省委託事業報告書『21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像－男女共同参画のために－』平成16年3月

2) Global Gender Gap Report 2021 :

<https://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2021>

<お問い合わせ>

(一社) 男女共同参画学協会連絡会事務局

メール: danjo\_office20@djrenrakukai.org